

道博協ニュース

第16号

発行 昭和61年3月31日
発行所 北海道博物館協会(事務局)
札幌市白石区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電011-(898)-0456

第二十五回北海道博物館大会の 開催概要

大会開催地紹介 — 北見市 —

北海道博物館協会も設立二十五周年を迎え、昭和六十一年度の北海道博物館大会も第二十五回大会として開催することになりました。この大会の開催に当り、開催地をお引き受けいただく北見市教育委員会および北網圏北見文化センターの関係者には、すでに打合せ等で多大のご協力を頂き、準備を進めております。なお、昭和六十一年は、北見市開基九十周年・市政四十五年の意義ある年であります。

第二分科会・地域博物館のネットワーキング
講演会・屯田兵と北見地方の開拓(仮称)講師・高倉新一郎氏(北海道大学名誉教授)

施設見学・北網圏北見文化センターおよび特別展「坂本龍馬展」、ハッカ記念館、ピアソン記念館、フラワーパーラダイスなどを予定。

詳細については、四月十二日の役員会で決定。加入館園には、五月下旬までに開催要領および参加申込書を送付いたします。

この北見大会を契機として、これまでの各地域の活動を、広域生活圏を中心に拡大されることを願っております。

是非、各館園よりの参加、および個人会員など多数の参加と活発な討論を期待いたしております。また、恒例の懇親会も計画中です。(事務局)

北見文化センター
大会テーマ・広域生活圏と博物館・園のネットワーク
第一分科会・複合施設のあり方と問題点

北網圏北見文化センター
北網圏は北見市と網走市を中心に、二市十二町村から成る広域市町村圏の呼称です。昭和五十六年国が進める「田園都市中核施設整備事業」の指定を受け、同五十七年(五十九年の三カ年事業により文化センター建設に着手し、同五十九年十一月にオープンした新しい施設です。

文化センターは、科学館・博物館・美術館・視聴覚センターの四機能を複合する二階建六、二二二㎡の総合博物館

であり、創造性豊かな文化の殿堂として市内はもとより広い地域から利用されています。

北見ハッカ記念館
北見ハッカはかつて世界生産の七割を占めた時代もあり、当市発展の礎をなした代表的な産業の一つでありました。このハッカを歴史的・文化的遺産として保存し、広く生活文化に活用することになりました。昭和二十九年創業、同五十八年閉場した北見ハッカ工場跡地の、木造二階建約二二〇㎡のハッカ工場旧事務

であり、創造性豊かな文化の殿堂として市内はもとより広い地域から利用されています。

文化センターは、科学館・博物館・美術館・視聴覚センターの四機能を複合する二階建六、二二二㎡の総合博物館

であり、創造性豊かな文化の殿堂として市内はもとより広い地域から利用されています。



北見ハッカ記念館

文化センターは、科学館・博物館・美術館・視聴覚センターの四機能を複合する二階建六、二二二㎡の総合博物館

所にハツカ関係資料を展示する記念館として復元、四月一日開館するユニークな施設です。また、前庭はハツカを中心に各種ハーブを植えたハーブガーデンとして、来館者に觀賞していただけます。

ピアノ記念館

この記念館は、アメリカ人宣教師・ピアノン夫妻が、この地に居を構えた大正三年から昭和三年に帰国するまでの十五年間の長きにわたり生活したところです。当時としては珍らしい洋邸として、地域の人々に親しまれてきました。また、当市に残る古い洋館の保存とピアノン夫妻の活動の足跡を留めるため、昭和四十六年ピアノン邸を復元し記念館としたものです。

フラワーパライズ

北見市の郊外、市街地を一望できる丘陵地を利用して造園した一大花園です。花園の面積は三十三万㎡あり、北方系の草花を中心に六三〇種、三十六万株におよぶ

ものです。春から秋にかけて、四季折々の草花がその美を競い、来園者の目を楽しませてくれます。

(北網圏北見文化センター)

学芸員・久保勝範

昭和六十年

道博協学芸職員部会

参加報告

昭和六十年年度の北海道博物館協会学芸職員部会は、新設間もない苫小牧市博物館を会場に、部会員三十七名の参加を以て昭和六十年十二月五日開催されました。

開催にあたり、新任の部長である野村 崇氏(道開拓記念館)及び副部会長の佐藤一夫氏(苫小牧市博)の挨拶をはじめとして、苫小牧市教育長の野々垣錦一氏より歓迎の挨拶をいただき、総会へと移りました。

総会終了後は、講義と実地研修、そして全体会議が行われました。最初に、苫小牧市博物館学芸員吉田国吉氏より、「自然史部門の展示について」

と題して、同館の展示シナリオを中心に、「大地のおいたち」「原野の生物たち」などの展示展開と演出や手法についての詳細な説明を受けました。

化石による北海道のなりたちや火山活動による大地の形成、そして石狩低地帯生成と生物の様々な姿などには、実証的な成果を表現しようとした展示であるとの印象を強く受けました。

午後の講義では、埋蔵文化財調査センター学芸員藤原氏より「人文部門の展示について」と題して、考古学資料の展示を中心に、展示に至るまでの経過や当初計画との変更などを含めた説明を受けました。実地研修の際に、これ等を踏まえた上で展示を見学しましたが、土器の展示や貝塚発見の魚骨などの展示手法は大変興味深いものがあり、参考となりました。

最後の講義は、苫小牧市博物館学芸員藤原康成氏による「資料の分類、整理、保管について」と題して、現在に至るまでの資料収集の状況と処理方

法及び分類方法について説明を受け、活発な質疑応答がなされました。

以上の講義の後に、佐藤一副館長の案内により館内の展示及び収蔵庫などを順次見学して回りましたが、空調設備をはじめとし、滅菌設備などの処理設備については参加者の注目を集めていました。また、空間を有効に利用するように配慮された展示には、質問や意見が多く出されてい

ました。部会の締めくくりとしての

全体会議では、苫小牧市博物館の今後の方向性や機構などの館運営について説明を受けました。また、参加した部会員のなかには、新博物館建設の構想を持っているところもあり、それぞれの抱える問題点なども出されていきました。

午後五時半過ぎ、生玉建四良館長の挨拶を以て、六十年年度の学芸職員部会の研修会等の日程を盛会のうちに終了しました。

(小樽市博物館)

学芸員・石神 敏

短 信

当様似郷土館の本年度の事業につきましては、何分にも緊縮財政の当町における文化活動は極度の制約が求められるため、存分な事業ができません。現状維持という状態であり、この現状における活動推進法のお知恵ご指導を、お願い申し上げます。

(電話番号)

〇一四六三二六一三三三五



昭和六十年 公民館職員研修講座に 参加して

この講座「博物館、郷土資料館等職員研修講座」地域や風土に根ざした博物館、郷土資料館活動の在り方を探る」は、昭和六十一年二月三日、五日の三日間にわたり道立教育研究所において開催されました。主催は北海道教育委員会で、各地の社会教育主事、学校教員、学芸員など二十八名が参加しました。

第二日目は、講義「教育普及活動、その考え方と実際」「資料の整理、分類、その考え方と実際」、実習では場所を北海道開拓記念館に移して「博物館資料の保存と修復の技術（レプリカ作り）」が行われた。この日の講義および実習は、直接的に現場と関連することが多いためか、参加者は熱心に受講していました。

第三日目は、講義「社会教育行政の当面する課題について」、研究協議「学習相談」、講演「北の風土を考える」でした。講義では臨教審や道発展計画の中で、社会教育行政の課題について述べられ、研究協議では、生涯教育における博物館活動について質疑応答がされ、博物館の位置づけに焦点が当てられました。講演は、アメリカの野外博物館の現状をふまえて博物館は擬似体験の場、そして情報センターの役割を持つだろうと話しをされました。

大前提をおさえ、各市町村での実情、意見交換の場と言えそうであった。

今後の博物館のあり方として、社会的認識を高めることが必要であることが大切であると思われた。それは単なる展示施設というだけでなく、教育活動の場であるという認識を高めることであると言いつけることができる。さらに、学校教育との連携、地域とのつながりを拡充することも考えねばならないであろう。しかしながら、町村段階では学芸員が一名で全てを任されている現状、または社会教育担当者があり、多様化された社会に対応



できないというこの現実を凝視しなくてはならないと思う。

この講座を通して、博物館の将来への期待とともに現実をどのように打開していくのかを痛感した次第であった。

最後になりましたが、ご指導をいただきました道立教育研究所、開拓記念館等の講師の諸先生にお礼申し上げます。

（新冠町郷土資料館 学芸員・乾 芳宏）

館園紹介

札幌市資料館

大通公園に続く一画に札幌テレビ塔に面して建つこの建物は、大正十五年九月札幌控訴院（後の札幌高等裁判所）として建てられたもので、新庁舎の完成と同時に取り壊されることを札幌市が国から取得し、昭和四十八年十一月三日の文化の日に「札幌市資料館」として開館したものです。

この建物は、煉瓦造、札幌軟石張、二階建（部三階建）で、二階床板はコンクリートという混合構造になっており、かつて市内に多く見られた軟石造の建造物として文化財的な存在となっています。

開館以来、北海道文学資料や郷土資料の展示に意欲的に取り組み、年間約二万五千人の観覧者があります。

展示には常設展と企画展があり、常設展は文学資料と郷土資料展示コーナーの二部構成となっております。

文学資料展示は、「北海道文学展示室」「札幌文学展示室」「有島武郎記念室」「船山馨記念室」があります。これらの展示室では、武林無想庵、森田たま、久保栄、島木健作、小林多喜二、伊藤整等の、北海道や札幌ゆかりの文学者について、その作品や原稿、書





「歌誌・『原始林』四十年展」
 第二回企画画展は、一堂に集めて文学館の風景を紹介しています。第一回企画画展は、
 九月二日～十月二十六日）で、短歌雑誌『原始林』の四十年の歩みを紹介します。第三回企画画展は、「石森延男と札幌の児童文学展(仮称)」(十一月三日～三月二十九日)で、児童文学者として著名な石森延男と札幌の児童文学とのかわりを紹介します。
〔札幌市資料館概要〕
 所在地・札幌市中央区大通西十四丁目
 電話番号
 〇一一(二五二)〇七三二
 敷地延面積
 一、六三七・八五㎡
 観覧時間・九時三〇分～十六時三〇分(火曜・日曜日)
 休館日・月曜日、祝日、年末年始(十二月二十九日～一月三日)
 特別開館日・五月三日、五日、十一月三日
 入館料・無料
 交通機関・地下鉄東西線西十丁目駅もしくは市電中央区役所前駅下車徒歩五分
 (札幌市教育委員会
 社会教育部文化資料室
 事務職員・一山洋美)

館 園 紹 介

仙台藩白老元陣屋資料館

白老町の仙台藩陣屋跡は、道内でも最大規模の陣屋跡です。幕末の歴史を示す貴重なもの。安政三(一八五六)年に陣屋が造られてからすでに百三十年を過ぎていくにもかかわらず、関係者の努力により往時をしのぶ土塁、堀など保存されてきました。昭和四十年には国の史跡指定を受け、以来国や道の補助を受けながら建物跡の平面復元などの環境整備を進めております。
 仙台藩白老元陣屋資料館は、この陣屋跡の歴史的意義をより広く、深く伝える専門資料館として、昭和五十九年十月十二日に開館しました。陣屋跡に隣接して位置するため、これと合わせて生きた歴史を体験することが出来ます。
 展示は、(一)導入展示、(二)北方への脅威、(三)仙台藩の出兵、(四)陣屋の武士達、(五)各地の出張陣屋、(六)仙台藩、(七)特別展示―三好監物―と七つのテーマに分け、当時の国際情勢など広い視野から理解できるように配慮しています。
 展示資料は、元陣屋に勤務していた仙台藩士の残した絵図、書簡、武器を中心に、陣屋跡の遺構確認調査の際に出土した陶磁器などです。絵図の中には、当時使われていた蝦夷地の地図をはじめ、現在の北方領土、国後、択捉島、歯舞、色丹諸島の様子が描かれています。陣屋跡と合わせて四十分程です。



《白老元陣屋資料館概要》
 所在地・白老郡白老町陣屋町 六八一―四
 電話番号
 〇一四四(八五)二六六六

開館時間・九時三〇分～十六時三〇分(火曜・日曜日)
 休館日・月曜日(祝祭日の時は翌日)、十二月三十一日
 一月五日
 入館料・大人二百円(団体百六十円)小・中学生百円(団体八十円)、団体は二十名以上
 交通案内・国鉄白老駅下車、徒歩二十五分
 (仙台藩白老元陣屋資料館
 学芸員・大場靖友)

短 信

蛇田町立火山科学館は、昭和五十二年八月七日の有珠山大噴火後の翌五十二年六月に開館しました。当科学館のメインは、何といっても体験学習室です。この度、この学習室の有珠山大噴火記録映画のフィルムを約五百万円費用で全面更新いたしました。
 是非、ご来館の上、有珠山の噴火のすさまじさを目と耳、そして体で体験していただきたいと思っております。
 (電話番号
 〇一四二七―五―四四〇〇)

館 園 紹 介

広尾町海洋博物館

海洋博物館は昭和六十年四月二十九日に、これまでの広尾町郷土文化保存伝習館（海の館）の併設施設として、古い漁業から新しい漁業、そして海洋時代の到来をつげる資料を集めオープンしました。

広尾町はその昔、東蝦夷地トカチ場所として古くから拓かれたところです。広尾町は、先人の英知と豊かな水産資源の恵みにささえられ、発展してきました。この海と人間と魚とのかかわりを再現しながら、海と魚の神秘と魅力を紹介し、あわせて漁業に対する正しい理解をしていただくことが当館の目的です。

展示の内容は、九コーナーからなっています。まず玄関を入りすぐに、皆さんを日本でも数少ないジャコウウシの剝製などの巨大な①北方圏の野生動物が、お迎えいたします。続いて②魚の世界、そして③広尾の漁業として、漁法

模型を海底からのぞき、コンピュータアニメが海中の様子を再現いたします。また、広尾町は町内を流れる八河川全てにサケが上り、サケの町としても有名です。④世界のサケを集め、地球儀に回遊の

神秘を写しだします。

マルチビジョンが、⑤広尾のまちと海を、そして漁船の操舵室を再現した⑥漁船と航海のコーナー。ここには、実際の救命ボートを展示しております。このあと、⑦海を学ぶコーナーから、スロープを昇りながら⑧イワシの群れと⑨海の深度と魚種の棲みわけ

を見ながら二階へ進みます。二階は、十勝の自然と日高山脈をこよなく愛した郷土の山岳画家・坂本直行先生の記念展示室です。絵画展示コーナーには先生の遺作三十数点が展示され、別室には先生のおいたちを知る資料や著書などが多数展示されています。

《広尾町海洋博物館概要》
所在地・広尾郡広尾町字野塚
九八九番地（シーサイド広尾内）
電話番号
〇一五五八（二）五五七二
開館時間・九時～十六時三〇分（火・日曜日）
休館日・月曜日、祝祭日の翌日、年末年始（十二月三十一日～一月五日）

入場料・高校生以上三百円（団体二百七十円）小中学生百五十円（団体百二十円）、団体は十名以上
交通案内・十勝バス広尾線の海浜公園前下車、徒歩十分
（広尾町海洋博物館）
学芸員・中山基秀

館 園 紹 介

苫小牧市博物館

苫小牧市は、昭和四十八年の開基百年記念事業の一環として、多くの市民が切望していた博物館の建設を決定し、博物館は元道立苫小牧工業高校の跡地を利用して文化公園を造り、その一角に建てられることになりました。建築工事は昭和五十八年十一月に着工、六十年六月竣工、九月末に内部展示を完了、十一月一日に落成、三日の文化の日に一般に公開されました。

博物館の外観は先住民族の住居をデザインしたもので、建物全体が暗褐色のタイルでおおわれています。構造は、鉄筋コンクリート造、地上二階、地下一階で建築面積は約



一、四〇〇㎡、延床面積は約三、三〇〇㎡となっています。一階にエントランスホール、ロビー、文献コーナー、第一展示室、第一収蔵展示室、特別展示室、講堂、事務室。二階は第二展示室、第二収蔵展示室、マルチビジョン室、展望ロビー、研究室、研究器材室、そして地階には体験実習室、収蔵庫（第一・第二）、倉庫、機械室、監視室などが配置されています。

展示の方針は、苫小牧が位置する樽前山麓・勇払原野の自然と、ここに住んだ人々がどのように風土に対応し、生活を拓いてきたか、その英知と努力の姿をメインテーマと





した「樽前山麓・勇払原野の自然と文化」を七つのサブテーマに分け構成しています。一階の展示は、樽前山麓で発見された二重根や化石資料などから「大地のおいたち」を示し、ウトナイ湖周辺の動植物の生態を「原野の生物たち」としてジオラマで効果的に表現しています。第一収蔵展示室は、これまでに収集した化石、動物剥製、昆虫、貝類を分類展示しています。二階は人文系の展示で、「原野のあけぼの」、「アイヌのくらし」、「開拓のあゆみ」、マールビジョンによる「伸びゆく苦小牧」、そして「スケート

のまち苦小牧」の五つのテーマを、実物資料を中心に模型写真、映像などを活用し興味深い展示展開としています。第二収蔵展示室は、アイヌ民族資料、陶磁器、生活用具などをケース毎に分類展示をしています。この常設展示のほかに、特別展示も年数回、各種の主題により実施することになっています。すでに第一回特別展「苦小牧地方の有形文化財」(六十一年十一月三日〜二十四日)、第二回特別展「地図にみる苦小牧の発展」(六十一年三月一日〜二十三日)が開催されており、教育普及活動として

ては、小学生から一般までの市民を対象に郷土の自然と文化に関する講座、体験実習、野外観察会などの実施なども進められております。この博物館に併設して、苦小牧市埋蔵文化財調査センターがあり、昭和六十年四月一日に開所式が行われています。このセンターと博物館は、施設の共同利用のほか、各種事業を共催、協力してより機能的な活動の展開をめざしております。

《苦小牧市博物館概要》所在地・苦小牧市末広町三丁目九番七号(市民文化公園内)電話番号〇一四四(三五)二五五〇建築面積・一、三九一・〇六㎡延床面積・三、二九四・二四㎡観覧時間・九時三〇分〜十六時十五分(火〜日曜日)休館日・日曜日、こどもの日、文化の日をのぞく祝日、年末年始(十二月三十日〜一月六日)入館料・一般三百円(団体二百四十円)高校生二百円(団体百四十円)小・中学生百

円(団体七十円)、団体は三十人以上
交通案内・市営バス中野停留所下車、徒歩五分
(苦小牧市博物館)
学芸員 ■ 藤原康成

この資料館は、浦河市街地から東に七kmの西幌別地区、浦河町立郷土博物館に隣接して建築されており、構造は、鉄筋コンクリート造り平屋で、面積三〇四㎡となっており、部門別にみると、展示部門二二二㎡、教育普及部門二〇㎡、収蔵部門九㎡、管理部門二〇㎡、その他四三㎡となっております。当資料館が、馬の専門資料館として開館したのは、昭和五十五年六月十六日です。開館直後の六月二十六〜二十七日は、第十九回北海道博物館大会が浦河町で開催され、参加者に施設視察をいただくことができました。主な展示資料には、五冠馬



ンドスタン号の剥製標本とその心臓の液浸標本があります。この他、旧日高種馬牧場(現日高種畜牧場)で使用された二頭曳き四人乗りの貴重な迎賓馬車、ドサンコとサラブレッドの骨格を比較できる全身骨格標本、日本各地や諸外国の馬の玩具、重賞・クラシックレースの臨場感あふれる写真パネル、レース用の勝負服や帽子、五冠馬シンザン号の蹄鉄等があり、現在の展示総点数は三五九点となっております。また、展示室と共用しているホールにビデオを設置し、昭和五十二年から最近の重賞・クラシックレースなどの競

馬中継を再放映しています。この他に、馬に関する文献九二〇点を所蔵し、閲覧の希望にも応じております。

この馬事資料館は、優駿のふるさと浦河町一丘と海とまきばの町にふさわしい個性ある施設として、今後も展示等の内容充実に努めていきたいと考えております。

《浦河町立馬事資料館概要》
所在地・浦河郡浦河町西幌別
電話番号
〇一四六二(八)一三四二

観覧時間・九時～十六時(四
月十一月の火曜日曜日)
休館日・月曜日、祝日、年末
年始、入館料・無料

交通案内・国鉄バス郷土博物
館前下車、国鉄日高幌別駅
下車徒歩十分

(浦河町立郷土博物館
学芸員・谷岡康孝)

異動 小樽市博物館館長の
大石章氏(当協会理事)は、
このたび小樽市文学館に異動
となりました。長い間、ご苦
労様でした。後任は、高井隆夫
氏で理事も交代引継ぎされます。

昭和六十年、日本博物館
協会の表彰を受けて

北海道開拓記念館
副参与・北川芳男

昨年十一月五日、熱海のM
OA美術館で開催された第三
十三回全国博物館大会におい
て、日本博物館協会の表彰規
程第二号による昭和六十年
の表彰を受けました。第二号

規程による受賞者は、北海道
からは北海道の博物館の先達
者である故米村喜男先生を
はじめ、博物館の発展に大き
な貢献のあった諸先輩の方々
がおられます。昨年度は、道
立三岸好太郎美術館の工藤欣
弥館長も受賞されました。

実は、博物館活動では、ま
だまだ未熟で若輩である私の
ようなものが、まさか、この
ような表彰を受けるとは夢に
も考えておりませんでした。

日博協の事務局から事前の連
絡があった時も、びっくりし
て、そんな馬鹿なことがと、
面はゆい気持でどうしようも
ありませんでした。実際に考

えてみても、私の博物館経験
は、北海道開拓記念館の建設
準備に携わるようになった昭
和四十四年九月からですので、
わずか十六年余りしかあり
ません。この間、館職員の精
力的な活動や道内外の多くの
方々の御指導や御協力により、
どうやら開拓記念館も全国的
にその存在を認められるよう
になりました。

振り返ってみますと、開拓
記念館が開館した昭和四十六
年、つまり、一九七〇年初頭
から道内はもちろんですが、
他の都府県においても新しい
博物館づくりの波が濤々と押
しよせてきた時期のようです。

こうした時期に、当時として
は確かに新しい展示方式や活
動目標をかがげて歩みはじめ
た開拓記念館は、その後にな
ってきた多くの博物館や資料館の
一つの目標となってきたし、
私どもとしても、いろいろな
立場で多くの博物館建設への
協力を続けてきました。

こうしたなかで、私自身も
館職員の協力を得ながら、多
少なりとも、道博協の仕事の

お手伝いや日博協事業への協
力をしてきたのですが、諸先
輩の業績にくらべるとほんの
小さなものでしかないのです。
したがって、今回の受賞は私
個人というより、開拓記念館



第33回 全国博物館大会記念撮影 昭和61年11月5日 於 MOA美術館

や道博協へ対するものと受け
とめておきたいのです。強い
て個人的にというならば、こ
れまでの業績にはなく、今
後しっかりと頑張れよというよ
うなことではないかと思っ
ております。いずれにしても、
館職員や道博協のみならず
多大な御指導・御協力に対し
心から感謝し御礼を申し上げ
る次第であります。

なお、このような紙面を借

りて失礼とは存じますが、一
応、北海道開拓記念館を三月
末日で退職し、四月からは静
修短期大学へ務めることにな
っております。しかし、道博
協には個人会員として留まり
ますし、先に述べたように、
お礼奉公というわけではあり
ませんが、北海道の博物館に
関する仕事も具体的に進める
ことになりまますので、今後と
も種々の御指導・御協力をい
ただかなくてはならないと思
います。改めてよろしくお願
い申し上げます。

(六十一年三月二十六日)

事務局より

◆「道博協ニュース」復刻

昭和四十八年の創刊号より
第十五号までの特集号を、コ
ピーにより復刻しました。ニュ
ースの総目録とともに送付し
ますので、郵送料として
六十円切手を六枚同封の上、
事務局までお申込みください。

日本博物館協会顕彰の

受賞にあたって

苦小牧市科学センター

館長・大西正男

昨年十一月、日本博物館協会顕彰の受賞の榮に浴し、誠に身にあまる光榮であり、感謝の気持ちでいっぱいです。顕彰式には、当市の新博物館オープン時期とも重なって出席できず、残念に思っています。

ふりかえてみると、私が現在の科学センター(当時は青少年センター)に勤めるようになったのは、昭和四十四年の八月。はや十六年余の年月が経ちましたが、顕彰規程にある……永年勤続し、他の模範……となると誠に恥しい限りです。

四十四年当時、苦小牧市は初めての博物館・青少年センターを建築中。翌年一月オープンを目ざして、展示の最終詰めなど準備の真最中でした。私は博物館には門外漢、準備にたずさわっていた先輩

や同僚にたいへん迷惑をかけたのではないかと思つていました。

青少年センターの建設準備にあたっては、室蘭、帯広、旭川、釧路、小樽の先輩五科の博物館をはじめ、道内外の多くの博物館、科学館の先生方から非常にたくさんのご指導、ご協力をいただいたことが思い出されます。

つい先日、古い資料を整理して、準備のころや開館間もないころに他館からいただいた資料を見つけました。厚手表紙で立派に製本されたクラブテキストや青焼きの事業計画書、ガリ版刷りの印刷物など。当時は景気がよかつたのかとうらやんだり、技術の進歩の速さに驚いたり、それにしてもみなさんへのお世話になったのだ、ありがたいことだとしみじみ感じました。

館活動もようやく軌道に乗つたと思われる昭和四十八年、苦小牧市は開基百年を迎え、その記念事業の一つとして新博物館を建設することがきま

りました。当然のことながら私たち館職員が準備にあたることになりました。

道開拓記念館のご指導・ご支援をいただいで、四十八年十二月に郷土博物館資料収集調査委員会を設置して、新博物館のための資料収集活動を開始しました。収集委員・協力員の努力、市民の理解と協力を得て、五十八年の新館着工

までに収集した資料は九万点を超えました。昭和五十五年に博物館懇話会を、翌五十六年には建設準備委員会を設置して準備推進にあたりました。

完成までに十二年間、館の性格づけをどうするか、展示の目玉を何にするのか、どのようにして職員体制を固めるか、悩みごとはたくさんありましたが、ご協力、ご指導をいただいで、何とかがオープンまでこぎつけました。準備にたずさわってきた職員のがんばりようも、

たいへん立派でした。

昨年十一月は、新博物館のオープンと日博協の受賞が重なって、私にとつては忘れ得ぬ喜びの月となりました。考えてみますと私と博物館とのかわりは、博物館に勤めるみなさんからのお世話になりました。どうしの年月でもありました。ありがとうございます。



(顕彰式の会場)MOA美術館

新加入会員

〈団体会員〉本別町歴史民俗資料館(中川郡本別町北二丁目、電話〇二五、二七二、〇六)

〈個人会員〉太田善繁

トピックス

◆日ソ極東・北海道博物館交流協会が発足

交流協会が発足

二月二十七日、道庁別館の北方圏センターにおいて関係者三十六人が出席、「日ソ極東・北海道博物館交流協会」の設立総会が開催されました。

この総会で、会則・事業計画を決め、次の通り役員を選出してあります。

- 会長・高倉新一郎、副会長・池島信吉、小田部善治、中川敏、西村慎一、浜森辰雄、柳谷正一、理事長・舟山広治、常務理事・柏倉勝雄、理事・石附喜三男、岡田宏明、北川芳男、工藤欣弥、紺谷憲夫、島田吉之、田部誠、山田亨、吉崎昌一、米村哲英、監事・藤村久和、山内栄治

なお、会費は年額三千円とのことですが、入会事務など詳細については、左記事務局へご照会下さい。

札幌市中央区北六条西六丁目横山ビル二階、日ソ親善協会内(電話七三七一六三二)

道北地方

博物館連絡協議会の

発足について

先に発足した道北地方博物館連絡協議会は、館・園の地方組織としては道内で初めての試みであろう。上川郡湧別温泉での会議には宗谷・留萌・上川の道北地方三支庁管内から十館十八人の関係者が参加。昭和六十年十月二十日めでたく設立の運びとなったものである。

形式よりも実質が大事という参加者の意気込みの表れであろう。実際、会食に入ってからのお話し合いは楽しく有意義なものであった。自己紹介を兼ねた現状報告は通り一遍のものであったが、酔うほどに本音が流暢にとびだしてくる。仕事の性質上話題には事欠かないが、グチもとびだしてくる。予算が少なく活動がでない。職員が少なくて業務の内容は「雑芸員」だ。周囲に理解されず孤独だ。……等々。

こういつた悩みは私など二十年來耳にタコができるほど聞いてきたことで、今だに続いていることなのだ。

だがそれだけではない。道北地方の博物館のほとんどは宗谷本線と富良野線沿線の都市に集中しているのだが、この南北に連なるという特性を活かすことができないものか。こんな問題提起から、この会で設定した特別展を順次巡廻してはどうかという案がだされ、全員の賛意を得る。各館

に共通のテーマを設定して全員で係れば、予算の面でも労力の面でも大変効率的で、しかも絶好の研修の場になるというのである。確かにこれは地域化によるメリットの一例である。

この会は各支庁単位といった行政区域にこだわっていないし、共通の要素があったり距離的に近いといった場合には加入を拒否するものでもない。また道博協の方針から逸脱して独自に行動する気も毛頭ない。最近、道内のあちこちで同じような動きのあることも聞き及んでいり、むしろ道博協において道内のプロクク化を検討し指導的な役割を果たすことが望ましいと考えている。

いま会の最初の事業として巡廻特別展にとりくむべく準備にかかわっている。まだ会は出発したばかりで、しばし試行錯誤が続くのである。どのよう発展するのか見当もつかないが、しばし見守っていてほしい。少なくとも会員は意欲的なのだから。

次回の総会にはまた新たなアイデアが示されるであろう。今年度の利尻町における総会が楽しみである。

(市立旭川郷土博物館
業務係長・其田良雄)

館園動向

◆万字線鉄道資料館開設

万字線の廃止にともない、一月中旬に岩見沢市奈良町五番九に開設されました。詳しくは、岩見沢市郷土資料室へ。(〇二二六―三二八五―四)

◆厚札部郷土資料館公開

六十年から建設が進められていた資料館が、四月一日より正式に公開されました。(〇二二九六―四二二四―二)

◆開村三周年記念行事

北海道開拓の村では、四月二十日に展示棟約十棟の公開の他、花馬車鉄道や手フートの体験印刷など、各種の記念行事を予定しております。(〇二二一八九八―二六九二―二)

◆国際染織美術館の開館

旭川市神居町高台にある優良織工芸館の姉妹館として四月二十七日開館されます。

なお、開館記念特別展「奈良薬師寺国宝・吉祥天女と三神像展」が、五月六日まで開催されます(一般三百円)。(〇二二六六―六一六一―二)

◆原子力センター展示室

古宇郡共和町の北電泊原子力センター内の広報展示室は四月三十日に公開されます。

◆夕張市炭砒調査の予定

夕張市石炭博物館では、四月から六月にかけて(一)炭砒の旧坑口の残存状況確認調査と(二)炭住など住宅地の変遷を知るために古老からの聞き取り調査を予定しております。(〇二二三五―二二三四―一七)

◆彌永北海道歴史館開館

昨年十月、砂金や貨幣資料約五千点を展示するユニークな歴史館として開館しました。(〇二二一七―二六一七―三五八)

出版物紹介

「北海道博物館ガイド」

北海道博物館協会編、北海道新聞社刊、六〇年三月、B六判二四五頁、書店扱千円、照会先・開拓記念館友の会

〇一(八九八)〇四五六

「北海道博物館ハンドブック」

北海道博物館協会編・発行、五八年三月、B五判一〇二頁、会員八百円、非会員千円(送料二五〇円)、事務局まで

「釧路市立博物館解説

シリーズ」

(一)東釧路の貝塚―先史時代の釧路(六〇年三月再版)
(二)クスリ場所―江戸時代の釧路(六〇年三月再版)



(四)釧路湿原(六〇年三月四版)
(五)釧路の海の魚(五九年三月)
(六)春採湖(六一年三月)

B六判四〇頁前後、各三百円
照会先・釧路博物館友の会
〇一五四(四一)五八〇九

◆道博協役員会報告

日時・昭和六十年十二月七日

会場・札幌雪印パーラー

出席者・役員十七名の内、山

丸・沢副会長および那須理

事欠席。その他、事務局側

より佐々木副館長、事務局

員三名出席(計十八名)

報告・(一)経過報告(二)学芸職員

部会報告(三)専門委員会報告

―北海道の博物館―

議題・(一)第二十五回大会(二)道

博協二十五周年について

その他・(一)当面の活動方針、

検討課題等について

報告では、白老大会で決議

された北海道交通記念館設置

陳情を道教委宛早速にすべき

との意見。専門委員会の北海

道の博物館(意見書)は、次

回役員会までの再検討とした。

議事では、二十五周年記念事

業として企画せず、三十年周

にむけ諸資料・記録整理に着

◆道博協役員会報告

日時・昭和六十一年四月十二

日(土)十四時三十分

会場・札幌雪印パーラー

議題および協議・報告事項

(一)昭和六十年年度経過報告

(二)専門委員会報告

(三)昭和六十年年度決算報告

(四)昭和六十年年度監査報告

(五)昭和六十一年度事業案

(六)昭和六十一年度予算案

(七)第二十五回、北見大会

(八)日ソ極東・北海道博物館

交流協会について

(九)その他 (事務局)

事務局日誌

昭和60年

11・20 「道博協ニュース」

第15号発行

11・26 会費納入督促状(団

体17件・個人15件)、ニュー

ス(140件)発送

11・30 網走監獄保存財団に

入会資料等発送

12・1 広尾町海洋博物館へ

入会資料等発送

12・3 道教育研究所より「

博物館・郷土館等職員研修

講座」開催につき連絡あり

12・5 学芸職員部会総会お

よび研修会開催(苫小牧)

12・7 役員会開催(札幌雪

印パーラー、役員14名・事

務局4名出席)

12・10 道教委宛に第25回道

博協大会補助金申請書類を

提出

12・12 「道博協ニュース」

既刊目録作成

12・18 中川会長・北川副会

長・事務局(関、中田)が、

道教委(教育長・社教部長、

社教課長・同補佐ほか)に

あいさつ。役員交代、事務

局移転、「北海道交通記念

館」建設に関する大会決議、

「北海道の博物館」等

昭和61年

12・19 事務局会議

1・8 昭和60年度開館博物

館等について日博協に回答

1・17 第25回道博協大会の

日程・講演等につき北網圏

北見文化センターと協議

2・4 本別町歴史民俗資料

館に入会資料等提供

2・6 日博協へ道博協大会

日程について連絡

3・1 第25回道博協大会に

つき、北網圏北見文化セン

ター平井館長と打合せ(北

川副会長、関、中田)

3・3 「学芸職員部会ニユ

ース」No.15発行

3・5 事務局会議

3・13 加入館園に「昭和61

年度春季行事・事業調査票」

発送

3・14 「道博協ニュース」第

16号原稿執筆依頼

3・31 「道博協ニュース」第

16号発行

【編集後記】

▼今号は多数の方の執筆協力

を頂き、お届けいたします。

▼このニュースも、年四回の

季刊を予定しています。各館

園の動向、新着資料や展示紹

介など、会員の皆様からの原

稿・情報で紙面の充実を図っ

ていきたいと考えております。

▼次号・十七号は、六月上旬

にはお届けする予定です。

▼春季行事・事業予定表も、

各館園の協力によるものです。

今後ともよろしく。(中田幹雄)